

貧しくとも

心はつねに 高貴であれ

— 坂村真民 —



仏教詩人、坂村真民さんの詩に、このよ
うな言葉がある。

貧しくとも

心はつねに 高貴であれ

一輪の花にも 季節の心を知り

一片の雲にも 無辺の詩を抱き

一碗の米にも 労苦の恩を思い

一塊の土にも 大地の愛を感じよう

ひとつの生命を見つめていますか。その

生命を大切にし、生かして、共に生きてい

ますか。あなたの傍に大切な生命が、ひと

つ、ほら輝いている。ひとつの大切さに気

づいて下さい。

それには、仏縁に出会い、よき人に出会

い、よき教えに会う努力をしてゆくこと。

苦境のなかで咲かせた悲しみは、ものの

生命を澄ませてゆきます。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猊下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜市金華町 吉川秀雄様に進呈しました。
ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月末抽籤で一名に進呈。

慈心もてあい向い

仏眼もてあい看る^み

— 善導大師 —



偶然思いもよらぬところで、知友と会った。

永い歳月を経ていたが、一目でわかりあった。肩をたたきあった。

彼の顔に、歳月の労苦を秘めた年の波があらわれていた。語るでもない、泣くでもない、髻^{ほうふつ}としてその面影が、物語っていた。

再会を喜び、再会を約して、再び別れた。誰しもが、美しく老いたいと思う。

日々の生活の思いと生き方が、その人の人生を築いてゆくものだろう。それがその人の顔相となり、振る舞いとなる。

職人の芸^{わざ}が一日にして成らぬように、人としての歩みも一日では造られない。

日々のどこかで、仏顔でいたいと思う、仏心でいたいと思う。その表情が、あなたの顔と心に、しみついてゆくからです。

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猊下のご染筆です。前号の色紙は、津島市宝泉寺檀家釧路市、樋田久寿里様に当選。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

底浅き小川は 音を立てて流れ

満水の河は おのずから静かなり

— 『スツタ・ニパータ』 —



川底の僅かな石くれにも波をたてるのは、私達凡夫の心。宇宙の真理そのものを体現しておられるみほとけは、大河のように、常に変わらずゆったりとしておられます。揺れ動く心のままに、右往左往して月日を過ごしてしまつて良いものでしょうか？揺れる心を捨て去つて、ゆったりとした弥陀という大河の流れに、身をゆだねてみませんか？大きなお力に委ねきつた時、私達のまわりに、思いもよらなかつた静謐と安穩の風景が見えてくることでしょう。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂親下のご染筆です。前号の色紙は、岐阜市在住 大口静子様にご当選。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。毎月末抽籤で一名に進呈。

衆生の重んずる宝

命に過ぎたるはなし

— 西山上人 —



三十三歳の主婦が、小学四年の長男を道づれに心中した。夫あての遺書に「愛がなくて生きられない」と書いてあった。

愛は薄いガラス細工のようなもの。いい加減につかんだり、すっかりつかみすぎると割れてしまう。いったいどれだけの人間が壊れた「ガラス」で傷ついたことだろう。人生は孤独なもの。終わりに死がある人生はむなしいが、それを自覚し、克服しなければ生きていけない。どんな理由があるうと、自殺は人生の敗北と信じたい。

命は愛によって輝くもの。

愛は永遠ではない。

永遠にとめるものである。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂殿下のご染筆です。前号の色紙は、白杵市在住大橋寺檀家 椎原 正様に当選。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。〆切毎月末抽籤で一名に進呈。

ほればれと 南無阿弥陀仏と

唱^{とな}うるが 本願の念仏にては あるなり

— 西山上人 —

「家に三声あり」という時代があった。老人がお経をあげる声、母親が子供をあやす声、子供が机で本を読む声。家の中で、家族のだれがなにをしているか、見えなくても声や気配でわかった。家族が一家所に集まって、仏前に手を合わせ、皆が一つになる場もあった。

現代の家庭はどうか。家族の息づかいというべき「三声」があるだろうか。

沈黙が支配する家より、話題が多くにぎやかなほうがいい。笑い声がはじける家がなおい。そして、ほればれと唱えるお念仏の声はなくてはならぬものだ。

総本山 永観堂 禅林寺



右の色紙は管長丹羽観堂猥下の「染筆」です。前号の色紙は、岐阜県笠松町 浜崎静子様に当選。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。メ切毎月未抽籤で一名に進呈。

法を教ゆる人は

不死を教ゆるなり

— 南伝經典『相應部』 —

慈眼視衆生

禪林也空



大蒜にんにくが良い、いやサルノコシカケが効く、いやいや、高麗人参が最高だと、昔から不老不死の妙薬を求めて東奔西走した人はその数を知りません。が、それらの人々のことごとくが、結局死んでいきました。皮肉な話です。

どんなに医学が進んでも、私達の肉体は、いつかは減んでいきます。それを食い止めようとする努力ほど、無駄なことはありません。

肉体が減んでも、私達は減び去ることのないものを持つことができる。この点に注目しましょう。

永遠のいのち。それを与えてくれるのが仏法です。みほとけの御教えによって永遠のいのちに気づいていきましょう。そしてそれを私のものとして頂いていきましょう。

総本山 永観堂 禪林寺

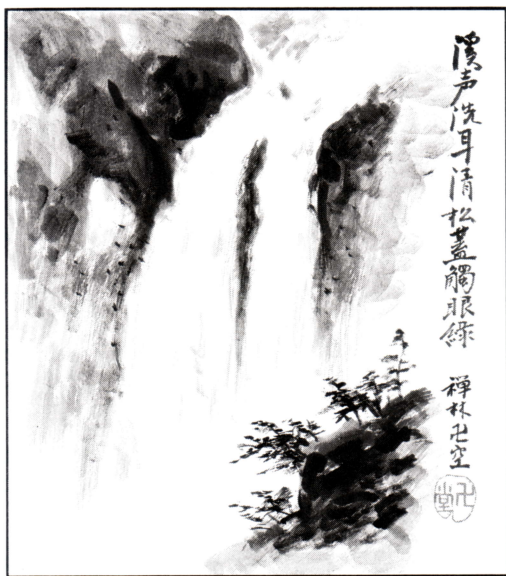
右の色紙は管長丹羽観堂院下のご染筆です。前号の色紙は、高砂 西光寺檀家 山本俊男様に当選。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

信ずるに足る教えのみを 信ぜよ

一心に信仰するとは 本願に成じようずるところ

の至心ししん信樂の信心なり

— 明 秀 上 人 —



現代の若者達の会話を聞いてみると、理解できない「ことば」が途端に出てくる。「ぶつちする」「お茶をしばく」「うるうるする」などといった言葉がある。若者たちはその言葉を使わなくては最新流行トレンディでないと仲間から言われる。そしていつの間にか、それらが日本語になって世間で通用する。若者達の造語が決して悪いと言うのではないが、やはり本来の日本の言葉は美しいと思う。流行語はそのときだけのもので終ってしまう。

今、いろいろな宗教が氾濫する中、本当に信ずるに足る教えだけを私どもは信じていかなくてはなりませんよね。

総本山 永観堂 禪林寺

仏の方より ほとけ かた

衆生を追い歩きたまいけるを しゅじょう

知らずして 今日まで流転しけるなり るてん — 西山 上人 —



夫の病がもとで、ある宗教に入信した奥さんの話です。

——入信してからというものの、一心不乱に信心に励み、信者の勧誘にも歩き、かつまた寄進も出来る限りをした。にもかかわらず夫の体は一向に良くならない。遂には自宅を売ってまで寄付をしたけれども、全く変わらない。そこで「どうして治らないのだろうか」と尋ねたら、「まだまだ信心が足りないからだ」と言われた。このうえは、私は一体どうすれば良いのか——これはまるでゴールのない馬拉ソンです。

お念仏の教えは、念仏を称えろと病が治るとかお金が儲かるなどは、絶対に説きません。今のままの自身が——たとい逆境にあるように思えても、すでに阿弥陀仏の慈悲の掌の上にあると知る、この心を培うよう勧めるのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は、金沢市在住 瀬戸洋子様に当選。ご希望の方はハカキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

人は営みしげくして 日ごと夜ごとにその命滅び去るをも覚り得ず
 風にゆらるる燈しびの 消えなんとする如くなり 住み難くして六道を
 行くへもわかずさまよえり

—— 善導大師ご法語 —— (大木 惇夫氏訳)



子供しかるな来た道だ
 年寄りきらうな行く道だ
 おもいやりこそ人の道

「豆腐は手で受けよ。蒟蒻は手でつかめ。」と云う言葉があります。やわらかい豆腐は手に静かに受けます。つかんでは崩れてしまいます。反対に蒟蒻は弾力がありますから、手で受ければ弾んで落ちてしまいます。

私たちは、知らず知らずのうちに、豆腐を手でつかみ、蒟蒻を手で受けるようなことをしています。年老いた人々を手でつかむように乱暴に扱い。元気な子供たちを手で受けるように過保護に育ててはいないでしょうか。おもいやりのある心配りが、したいものです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂猊下のご染筆です。前号の色紙は、名古屋市熱田区在住 野辺 進様に当選。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

人中 天上の快樂は

夢中にして 幻の如し

西山上人

好 日



禅林まをん空



人間は誰でも幸福を願っている。

皆んなが追求してやまない幸福とは、一体何んでありましょうか。

苦勞がないこと。お金があること。地位が高いこと。……そんなことを考えがちです。

私たちは、まず、幸福ということを明確にしなければなりません。

—— 私たちが幸福だと思っていることは正しい幸福でありましょうか。私たちが幸福を求める手段、方法は正しいものでありましょうか。—— 充分に考えてみなければなりません。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽觀堂宛下のご染筆です。前号の色紙は、京都市宝幢寺檀家佐竹西甫様に当選。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

弥陀の願力は

女人の心のうえにあらわる
母のこころ 仏の心

安心鈔



はげばちりはらばまたも
塵つもる人の心も
庭の落葉も

釋林世空

いつの世でもどこの国でも母は偉大であり、悲しい存在です。

子を宿し、産み、その苦痛さえ忘れ、乳を哺乳せ、暖かく包み、屎尿を洗い、躰を施し、子のために悪さえもなし、なくなるまで凜然と母であり、死しても子と思う、大いなる慈悲の母。

ようやく空いた背や肩に、今度は労苦を背負わせて、それでもなお苦にせず、子を責めずに、子の成長という悲願に生きている母。高村光太郎の詩に

母を思い出すとおれは愚にかへり

どんなことがあらうともみんな

死んだ母が知っているやうな気がする。

と詠っている。母のむこうに永遠なるものが見えてくる。

総本山 永観堂 釋林寺

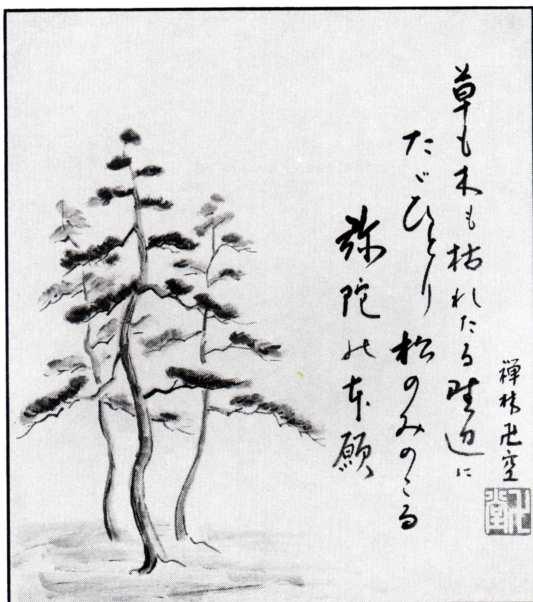
右の色紙は管長丹羽観堂猗下のご染筆です。前号の色紙は、大津市九品寺檀家 福島スガ様に当選と決まりました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。

人 世間愛欲のなかにありて

独生独死 独去独来

代るものあることなし（無量寿経）

他人^{ひと}の痛み^{いたみ}のわかる人



他人^{ひと}は誰でも心の中に、他人には言えぬ痛みを持つている。どんなに明るく振るまっ
ていても、憂いや悲しみが無いのではない。
他人に語らぬだけなのだ。他人にいくら説
明しても、わかってもらえぬことがある。
代ってもらえぬことがある。だから、語る
のをやめてじつとこらえているのだ。その
時、人は孤独を知る。

「優しい」という字は「人の憂い^{うれひ}」と書
く。他人の憂いや痛みも自分の憂いと受け
とめて、はじめて人への優しさとなる。

健康を誇る者が、他人の病気に理解が持
てぬように、人生の傷や痛みをまったく知
らぬ者は、他人へのやさしさもなく、本当
のしあわせもわからぬだろう。

他人の痛み^{いたみ}のわかる人が、本当の人間な
のだ。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長丹羽観堂現下のご染筆です。前号の色紙は、生野西福寺檀家 綾部市太郎様 に当選いたしました。ご希望の方はハガキで住所・氏名・年令明記の上、下記へ申し込み下さい。切毎月末抽籤で一名に進呈。